

木蘇爾河
の騎渡

滴水崖の
沙磧

喀喇玉爾
棍は昔の
姑墨國

其の原因を飲水不良の結果に歸せるが果して如何にや。

十四日發、行程三里弱にして木蘇爾河、一名「コムザット」(水河)の畔に達す。河幅約

二千米突、水流數條に分れ、幅計約千米突あり、深さ馬腹に及び、混濁せる急流にして

案内者なくんば通過し難し。薄暮同河を越え次で察爾齊、一名雅克阿雷克(七十家約)

に入り、休憩暫時の後此を發し、塔齊霍羅斯達坂に向ふ。東坂は頗る緩なるも西坂

は稍急なるに因り叱咤、一鞭を加へ、翌十五日午前七時過行程約十里、車爾戛(一名滴水)

に着す。木蘇爾河より道路は西南方に走り、全程沙磧にして間々沙丘脈の道路を

横斷する有り。其他何物も目に映ずる無し。是れ即ち有名なる滴水崖の沙磧な

り。就眠勞を醫し午後二時出發、行くこと約二里、鄂爾的霍喇達坂を經、此より三里

にして、鹽水溝(或は特克喇克店)の谷地を進み、復た三里を進みて開濶地に出で、夜行

數里、行程十二里餘を以て喀喇玉爾棍に達したるは夜半十二時とす。

喀喇玉爾棍は、人家其附近合せて約四十戸あり古の姑墨國の地なり、此處に至る

間車爾戛の東南方即ち鄂爾的霍喇達坂の東一連の沙崗中及特克拉克店一帶の沙

崗山中に銅鑛ありと云ふ。一般沙磧帶なるが故に沿道飲料水は、特克拉克店に於